

## カナダにおける仕事と生活の両立支援：変化に対応した取組み\*

リンダ・デュックスベリー、クリス・ヒギンズ  
小林信彦・金子能宏 訳

\*“Work-Life Balance in Canada: Making the Case for Change.”

### 1. はじめに

新世紀を迎え、カナダでは政府以下、共通の挑戦—カナダ人にとって仕事での役割と仕事以外での有意義な生活とのバランスをいかに簡単にするか—に直面している。この10年以上にわたる多数の研究の結果、多くのカナダ人が仕事と家庭のバランスをとることに苦慮していることが明らかになった(Akyaempong, 1997; Macbride-King, 1990; Lero et al., 1993; Duxbury et al., 1991; Higgins et al., 1992; Duxbury and Higgins, 1998, Johnson et al., 1997, Dr. Linda Duxbury; Dr. Chris Hinggin) <sup>1)</sup>。

この論文は仕事—生活のバランスについての分野の研究を比較検討し、労働者とそのリーダー、政策策定者、学識経験者間のコンセンサスとして理解されるような大きい目標はどのようなものかを探るとともに、この10年間でカナダでこの分野で起こった観点を提供するものである。ただし、この論文ではこの10年以上にわたる従業員と雇用主や社会における仕事と生活の衝突の影響に特に注意を払いたいと思う。

この論文は5つのセクションで構成されている。セクション1は、読者に適切なトピックの背景を。セクション2は、データを文脈に人口統計学、社会、経済、そしてカナダの労働—生活の衝突にインパクトがある政治上の変化を概説する。セクション3は、(1)カナダにおける高い仕事—生活の衝突の広がり最近のデータにより確かめるとともに、(2)

1991年と2001年の労働—生活のバランスの経験を比較することにより具体的にどの程度仕事—生活の衝突の問題があるのかを考察する。セクション4に含まれるデータは高いレベルの仕事—生活の衝突の個人、家族、組織、社会一般への効果はどれほどのものかの変化についてビジネスケースへ提供する。セクション5は、組織と政府は仕事—生活の衝突を減少させることができるかどうかを考察することにより、21世紀のカナダにおいて仕事をする家族に対するより好ましい施策について提言を行う。

### 2. 仕事—生活のバランスとは何か

カナダの労働力の様相はこの十数年の間に劇的に変化した。労働—生活の衝突の増加は下記の事項と関係している。労働と生活のバランスと緊張はカナダの女性労働者の増加と共稼ぎ家族への付随したシフトを言及しないわけにはいかない。1977年と1996年の間に女性労働の就業率は43%から57%まで増加した。1998年には58%の25歳以上の女性が家の外で稼いだ。同じ期間男性の就業率は81%から74%まで低下した。1998年には女性労働力はカナダの労働力45%まで上昇した。特に、子供がいる女性(とりわけ幼い子供)の就業率は劇的であった。1976年から1998年の間に3歳以下の子供を持った女性の就業率は32%から64%に倍増した。同じ期間に6歳から15歳の子供を抱

えた女性の就業率は50%から72%に増加した。1998年には3分の2の女性が就業した。

カナダの最近のデータは、女性の労働環境が男性のそれに似つつあることを示している。伝統的に女性がかつて結婚するとき仕事から去った。1990年代にはこれはもはや多くの女性の中では大多数ではなく、子供を産んでから2年以内に仕事に復帰した。近年、共稼ぎの家族はカナダの家族の典型になりつつある。その割合は、今日、10家族中7家族である1967年の34%からの増加)。カナダの家族で、いまだ男性が稼ぎ頭で女性が主婦であるモデルにフィットするのはたった20%の家族である。2つめの家族形態である片親も1990年代に増加した。1996年には片親の家族は110万世帯に達し1991年から19%増加し1986年には36%増加した。これらの数字が男性、女性の稼ぎ頭を含むにもかかわらず片親は女性の領分であった。1996年には女親は男親より4倍多くなった。

さらに、カナダの人口構造の高齢化も仕事—生活のバランスに影響を及ぼし始めている。1950年代と1960年代初頭のベビーブームの後、出生率の低下が続いた結果、人口構造に占める15—24歳の若者のプールを減らした。2001年には20%のカナダ人が65歳以上になると試算されている。この高齢人口はカナダに高齢介護に対する責任を有するカナダ人のさらに多くの人口を費やされることを示している。1996年の国勢調査によると15%のカナダ人は高齢者に何がしかの世話を供給している。バニア研究所は75歳以上の66%は家事、料理、個人のことを家族に頼っていると記述した。この事実は高齢者が増加することにより、多くのカナダ人が彼ら自身の両親の世話が必要となることを提案している。

1991年と1996年の間に0.7%収入が減少した。平均的な家族収入は90年代のあいだに減少している。1990年に平均的な家族収入は57300\$であった。1995年には54600\$になり5%減少した。

スコットはこの家族収入の減少はとりわけ同期間の子供養育費にとって問題となるとしている。女性の収入はかつての家族の金銭的平穏に比較して大切である。カナダの家族の半分近くの女性の稼ぎは25%から49%に増加した。4人家族のうちの1つの女性の稼ぎは半分もしくはそれ以上収入に寄与している。

以上の諸要因によって影響を受けている仕事—生活のバランスとは、日常生活で我々は雇用者としての役割、親としての役割、子供としての役割等多くの役割を演じている。それらの役割が実際に果たされるためには、いずれについても時間や、エネルギー、役割の遂行が必要とされる。仕事—生活の衝突を生じさせる仕事や、仕事をしていない生活からの要求がいくつかの場面で相容れないため、ある役割を果たすことは他の役割を果たすことを困難にする。幾10年間にわたる研究が仕事—生活の領域を分析してくれたのは確かである。しかしながら、研究のパラダイムは労働と生活の分けられた世界に対する没頭から仕事(積極的でも消極的も両方)が家族の領土や逆に仕事と家族、共同体の領域の相互作用と相互関係にあふれ出ることをどのように経験するか的一点に集約される。

なぜここにきて仕事—生活の衝突が論点となるのかについては、1990年代の支配的な経営戦略は人々の発達よりコスト削減であり、カナダ政府はバランスの達成よりも経済、安全、仕事の継続に執着していたからである。女性の労働市場への参入、産業構造の変化に伴う経済力の変容、政府の介入の変化等、この10年間は労働者がとてつもなく大きな変化に直面した時期であり、これにより従来の仕事—生活の関係が変化していったことによる。

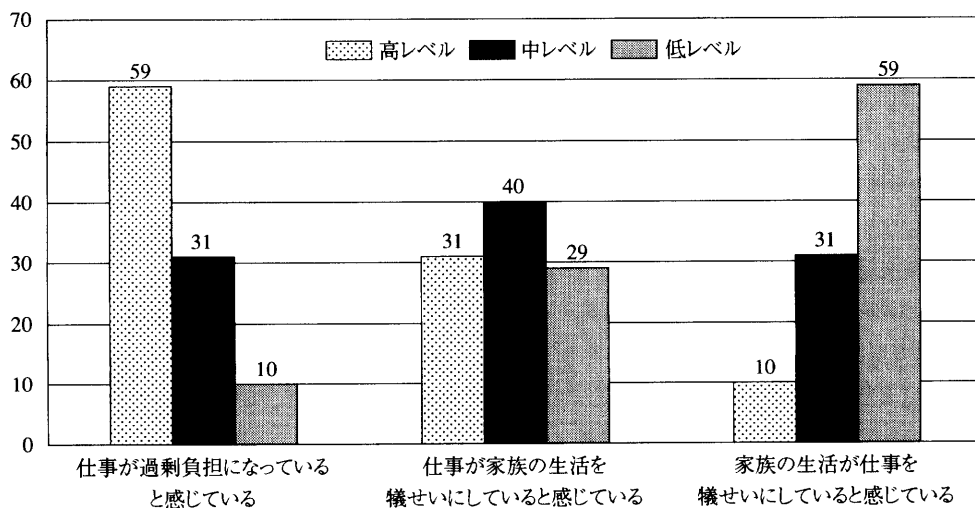
### 3. 仕事—生活のバランスとストレスとの関連性

2001年の仕事—生活の衝突のデータを図1に示す。これらのデータは、10人中6人のカナダ人労

勤者が過剰負担のレベルの役割を報告していることを示している(彼らは利用できる時間の量に對することが多く、忙しい、彼ら自身のことをする時間が無く、肉体的にも、感情的にも、疲弊していると感じている)。高いレベルで仕事が家庭生活への妨げになると答えた人の割合は3分の1であった(例えば、仕事の要求は家族や友達と家でゆっくり過ごすことを困難にしており、親に親切にすることができず、仕事の計画が個人の趣味を邪魔している)。一方、高いレベルで家族が仕事の妨げになるという人の割合は10分の1でしかなかった(家族での生活が仕事の責任の妨げになる、残業できない、彼らが見たいと思っている仕事や職業の時間の量を費やすことができない)。これらのデータは肉体的、精神的な健康の問題と強く関係があることが分かっている。過重負荷が高いレベルにあることは、欠勤、仕事との関係で心の傷を負うこと、事故などの発生率を上昇させる原因となる。他方、仕事が家族の生活を犠牲にしていると強く感じていることはモラルと組織への忠誠心

の低下と大きく関係している。意識の起伏が大きければ大きいほど、精神の安定はより損なわれることになるからである。

従業員は2001年には家族に使う時間を仕事の要求にまだ合わせている。1991年における同様の調査と比較すると、仕事は家族を犠牲にしていると強く感じていることはこの10年間に3%増加した。家族との生活が仕事を犠牲にしていると感じているという回答者は10年間で増加した。家族との生活が仕事を犠牲にしていると感じている人々の中で、その程度が中レベルだった人の割合は、1991年は27%だったのに対して、2001年には、31%に増加した。同じ期間、従業員が家族のために独立してケアできる時間は一週間に16時間から11時間を下回るくらい減少した。知覚できるほど高いストレスとうつ状態を抱えているカナダ人の割合は10年間で増加している。1991年には48%の回答者が我々のサーヴェイに知覚できるストレスを回答し、3人中1人がうつ状態になったことがあると答えていた。2001年にはストレスを



注：高レベル、中レベル、低レベルは感じ方を示すグループの中で、それぞれ強く感じている、感じている、やや感じていることを示す。

図1 カナダの人々が直面する仕事と生活との間のアンバランス

感じている人の割合は55%にまで増加した。また、うつ状態を経験したことのある人は38%まで増えた。これらの発見と精神面の健康と生命の満足度と間の強い関係は文献によって報告された人生の満足度はこの10年間に渡り減少してきているということは驚くべきことではない(1991年の一番高いときが42%で2001年には40%)。

これまでのところ、仕事と生活の両立の挑戦についての解答は仕事と生活のバランスの変化と従業員の残業が及ぼす精神的な健康状態を見るとフェアではない。この結果は多くのカナダ人労働者にさまざまな弊害をもたらしている。

#### 4. 仕事—生活のバランスを失うことのコスト

雇用主から見ると、仕事と家族の要求のバランスが取れないことは仕事の成果を減らすことになり、欠勤者、転職者、低いコミット、モラルが増加することになる。仕事と生活の衝突は、生産性の減少、動きがのろいこと、予定外の欠勤、急な休み、電話の過度の使用、会議に出ない、仕事への集中ができないことなども繋がっている。カナダの会社の欠席による直接的コストを見積もった著者による最近の研究では仕事と生活のバランスが取れないことによる被害は一年間で3億円以下である。これと同じ研究は高い生活と仕事の衝突を伴った従業員は一年間で13.2日休みやすい—実質問題が無い従業員の5.9日より高い。他の研究者は生活…はより高い欠勤と結びつけた、カナダの統計では例えばカナダ人が仕事を休むことに関係するストレスのコストを見積もるとおおよそ一年につき120億ドルになる。

政府から見ると、最近のカナダ人の健康システムが直面している挑戦は地方と連邦の政策策定者が重要な仕事—生活の衝突と肉体的、精神的健康の間のつながりを見渡すことを受け入れがたい。カナダにおける人口の健康が明白に世界中でベストにもかかわらず、カナダは健康に対しての

支出に関して妬まれるポジションではない。カナダはそのGDPの9—10%を健康に割いている、OECDの他の国に比べてUSのみもっと高いGDPを健康に割く。コスト—維持の戦略は資金調達とヘルスケアのサービスの多くのカナダ人がヘルスケアシステムを“永久の危機”と見ている状態の地域への配達についてのかんがりの関心事と議論が引き起こされた。政府の新しい効率を高める道を調査することによりヘルスケアの“危機”に対する反応の重大であるかどうかにかかわらず、最初の場所でヘルスケアサービスの要求の減少の道の調査についての議論により戻ると同じくらい重要である。最近の研究で高い仕事と生活の両立問題でストレスをもった従業員により作られた医者に対する余分なコストは少なくとも毎年4億2500万カナダドル掛かる。我々の最も最近の研究では高い仕事—生活の衝突を持った人ははっきりと病院にも訪れるし、入院もするし、医療チェックもすることを示唆している。かれらは開業医(籠府、セラピスト、心理学者)を明らかによく使い、薬をよく飲んでいいる。これらのデータはカナダの労働者の仕事—生活の衝突を減少させることによりカナダ人の健康の改善とヘルスケアの支出の削減に向かって重要なステップを表明した。

#### 5. 仕事—生活のバランスを取り戻すための課題

なぜ、政府と組織が仕事—生活のバランスへの配慮をこれまで以上に重要視しなければならなくなったのかという疑問に関し、90年代は明確にカナダが変化した10年と関係する。従来よりもさらに大きな割合で労働力を求められることにより、親、配偶者等それぞれの役割間のバランス調整が困難になったという事実を反映し、仕事—生活の衝突が明らかに増大した。従業員はさらにストレスが溜まり肉体的にも精神的にも状況は非常に悪いものとなり、それに伴い人生に対する満足度も同様に低下している。同じ期間、従業員の仕事と雇

い主への態度は変化した。仕事についてはよりストレスが溜まるようになり、その満足度は低くなり、組織に対しても忠義を尽くすことはなくなった。彼らはかなり多くの時間を仕事に割いている、職場で対処できなかった仕事を家に持って帰り、夜や週末に仕事を終わらせるために家で作業を行う。カナダのマスコミがかつて“カナダらしい生活に値する時間の流れが崩れた”、だから“シンプルな生活に戻れ”“ストレスに対抗しよう”といった標語に没頭した時期があった。逸話的であるが、このことから我々は、人々は今バランスをとるのにより困難になったとことに気付くのである。それだからこそ経験的に異なった研究(ビジネス、心理学、科学、経済、老齡学、衛生学、ソーシャルワーカー、法的な人的資源、工業)の研究者は仕事と家庭のバランスの論点を扱い、この分野を研究する。

高いレベルでの仕事－生活の衝突はこの10年間に渡り明白であった。仕事－生活の衝突の原因となった大きな社会経済面の変化は次の3つである。(1)多くのカナダ人女性が家の外で賃金労働をしている、(2)多くのカナダ人の家族が経済的に

副収入に頼っている、(3)労働者の不足を伴い、カナダ人の雇用主は彼らの労働力の半分を捨てることはもはやできないほど彼らを活用している。

仕事－生活の衝突をいかにして減少させていくかについては、まず仕事－生活の衝突はこの10年間で増加したことを確認した上で、従業員の肉体的、精神的な健康状態は組織と仕事への満足度を減少させることになるという共通の認識をもつことが必要である。この論文が指摘したこと、すなわち、しばしば仕事－生活の衝突は組織のあり方について否定的な印象を与え、従業員の健康を害し、家族の一員としての役割を果たすことの楽しみを奪い、その結果として健康を維持するために費用をかけることになることに我々は注意を払わなければならない。このような問題意識に従ってこの問題について組織と政府のそれぞれが果たす役割について本論文で検討したが、その結果得られた職場環境に関するアイデアは次の通りである。すなわち、生活時間を大切にするために、仕事の時間や場所の選択ができる伸縮的な雇用形態(パート・タイム労働などの非正規労働)と職場

表1 仕事と生活の両立を援助するための労働条件の調整(カナダの主な研究<sup>2)</sup>に取り上げられた事例

(%)

	Paris, 1989	Akyeampong, 1997	Lero et al., 1993	Duxbury et al., 1991	Higgins et al., 1992	Duxbury and Higgins, 2001
労働条件の調整						
フレックスタイム労働	49	24	32	24	18	19
パートタイム労働	30	19	53	3	—	7
ジョブ・シェアリング	19	1.5	24	—	—	1
CWW	28	—	—	17	1	14
テレワーク・サテライトオフィス	11	9	—	0.2	0.5	1
事業所内託児所	5	—	6	—	—	7
出所	Employer survey: 385 large (2000+ employees) Canadian public and private sector organizations	Labour force survey: nationally representative of Canadian employees aged 15 to 69	Labour force survey: nationally representative of Canadian employees with primary responsibility for child care **	Employee survey: 6,000 + employees working in 6 Canadian federal public sector departments	Employee survey: 17,000 + employees working in 37 Canadian private sector organizations	Employee survey: 25,000 + employees working in 107 Canadian public, private and not for profit organizations

注1：労働条件の調整は諸外国でも行われているが、ここにとり上げたのはカナダの最近の研究だけである。従業員調査が多いが、Paris (1989)だけ事業主調査である。従業員調査と事業主調査で割合が異なるのは、必ずしもすべての従業員が労働条件の調整の対象となるとは限らないためである。

2：— 該当なし

3：\*\* サンプルの95%が女性である。

形態(サテライト・オフィスなど)を活用することである。これに加えて、伸縮的な雇用形態に対応した多様な福利厚生制度や職場環境の改善が図られなければならない。これについては、従業員の仕事と生活の両立を援助するための労働条件の調整に関する事例を比較した6人の研究者の成果をまとめた表1が参考になるだろう。

最後に、政策策定者が今後、政策を時代遅れの家族の定義を根拠とし続けるのであれば彼らは本当の家族のニーズを理解していないと明記すべきである。いまだ多くの政策は1950年代の男性が家族の稼ぎ頭で、母親、父親、子供からなる核家族が理想であったものに基づいている。この論文で検討した社会経済面の変化に加えて、平均寿命の伸び、離婚、再婚などによるさまざまな変化が、伝統的でない家族構成を増加させたり、家族とは何かということを変えた。政府の政策もこれらの諸問題を反映するべきである。

注

- 1) 筆者ら自身によって作られた下記の参考文献を参照。
- 2) 注1)と同様。

#### 参考文献

- Akyaempong, E. (1997). Work arrangements: 1995 overview. In: Statistics Canada, *Perspectives on Labour and Income*, Catalogue 75-001XPE, Spring, 48-52.
- Akyaempong, E. (1998). Work absences: New data, new insights. In: Statistics Canada, *Perspectives on Labour and Income*, Catalogue 75-001XPE, Spring, 16-22.
- Atkinson Letter, (1999) *Are Canadians Working Too Many Hours?* Part 2, October.
- Baker, M. (1995), *Canadian Family Policies: Cross-National Comparisons*, University Of Toronto Press: Toronto
- Barling, J. (1990), *Employment, Stress and Family Functioning*. John Wiley and Sons: Chichester, England
- Beaujot, R. (1991). *Population Change in Canada: The Challenges of Policy Adaptation*, McClelland and Stewart: Toronto.
- Betcherman, G., McMullen, K., Leckie, N. and Caron, C. (1996). *The Canadian workplace in transition*. Kingston: Queen's University, Industrial Relations Centre.
- Bond, J., Galinsky, E. and Swanberg, J. (1997). The 1997 National Study of the Changing Workforce, Family and Work Institute: New York.
- Bowen, G. and Pittman, J. (1995). *The Work and Family Interface: Toward a Contextual Effects Perspective*, Family Focus Series, NCFR, Minneapolis MN.
- Canadian Home Care Association, (1998). *An Overview of Publicly Funded Home Care Programs in Canada*, National Conference on Home Care, March.
- CCSD, (1996). *Family Security in Insecure Times: Volumes 2 and 3*, Canadian Council on Social Development: Ottawa.
- CCSD, (1998), *The Progress of Canada's Children*, Canadian Council on Social Development: Ottawa.
- CLC, (1998a). *Unemployment Insurance Bulletin*, Canadian Labour Congress: Ottawa, June, Volume 1.
- CLC, (1998b). *Left Out in the Cold*, Canadian Labour Congress: Ottawa
- CLMPC, (1997). *Changing Times, New Ways of Working*, Canadian Labour Market and Productivity Center: Ottawa, April.
- Conger, J. (1998). How "Gen X" Managers Manage, *Strategy and Business*, First Quarter, 21-29.
- Cote, D. (1998). *Who Will Be Responsible for Providing Care? The Impact of the Shift to Ambulatory Care and of Social Economy Policies on Quebec Women*, (Translation), Status of Women: Ottawa.
- Coyte, P. and McKeever, P., (1999). The Perils of Rushing Into Home Care, *Globe and Mail*, March 29, pg. A15.
- Duxbury, L., Dyke, L., and Lam, N. (2000). *Managing High Tech Employees*, Carswell Press: Toronto
- Duxbury, L. & Higgins, C. (1991). Gender Differences in Work-Family Conflict, *Journal of Applied Psychology*, 76, 60-74.
- Duxbury, L. Higgins, C. Lee, C. & Mills, S. (1991). *Balancing Work and Family: A Study of the Canadian Public Sector*, Prepared for The Department of Health and Welfare Canada (NHRDP), Ottawa, Ontario.
- Duxbury, L., Higgins, C. & Lee, C. (1994). Work-Family Conflict: A Comparison by Gender, Family Type and Perceived Control, *Journal of Family Issues*, 15, 449-466.
- Duxbury, L. & Higgins, C. (1994). Families in the Economy, in M. Baker (ed). *Family Policy*, Vanier Institute, Ottawa, Ontario, 29 to 40.
- Duxbury, L. and Higgins, C. (1995). Obstacles to Productivity: Do You Have a Supportive Manager, *Recruiting and Supervision Today*, January, 10-11, 22.
- Duxbury, L. & Higgins, C. (1997). Supportive Managers: What are They? Why do they Matter? *HRM Research Quarterly*, 1, Winter, 1-4.

- Duxbury, L. and Higgins, C. (1998). *Work-life Balance in Saskatchewan: Realities and Challenges*, Government of Saskatchewan: Regina.
- Duxbury, L., Higgins, C., & Johnson, K. (1999) *An Examination Of The Implications And Costs Of Work-Life Conflict in Canada*, Department of Health: Ottawa
- Duxbury, L. and Higgins, C. (2001), *Work-Life Balance: Rhetoric versus Reality*, Canadian Policy Research Network: Ottawa.
- Fast, J. and de Pont, M. (1997). Changes in Women's Work Continuity, *Canadian Social Trends*, Autumn.
- Foot, D. (1996). *Boom, Bust & Echo. How to profit from the coming demographic shift*. Toronto: Macfarlane Walter & Ross.
- Friedman, D. and Johnson, A. (1996). *Moving from programs to culture change: The next stage for the corporate work-family agenda*. New York: Families and Work Institute.
- Frieler, C. (1998). *Benefiting Canada's Children: Perspectives on Gender and Social Responsibility*, Status of Women: Ottawa.
- Frone, M. and Rice, R. (1987). Work-family Conflict: The Effect of Job and Family Involvement, *Journal of Occupational Behaviour*, 8, 45-53.
- Frone, M., Russel, M. and Cooper, M. (1992), Prevalence of Work-Family Conflict: Are Work and Family Boundaries Asymmetrically Permeable? *Journal of Occupational Behaviour*, 13, 723-729.
- Frone, M., Russel, M. and Barnes, G., (1996). Work-family Conflict, Gender and Health Related Outcomes: A Study of Employed Parents in Two Community Samples, *Journal of Occupational Health Psychology*, 1, 57-69.
- Frone, M., Russel, M. and Cooper, M., (1997). Relations of Work-family Conflict to Health Outcomes: A Four Year Longitudinal Study of Employed Parents, *Journal of Occupational and Organizational Psychology*, 70, 325-335.
- Galinsky, E. and Stein, P. (1990), The Impact of Human Resource Policies on Employees: Balancing Work/Family Life, *Journal of Family Issues*, 11, 368-383.
- Galinsky, E., Friedman, D., and Hernandez, C. (1991). *The corporate reference guide to work-family programs*. New York: Families and Work Institute.
- Ganster, D. and Schaubroek, J. (1999). Work-Related Stress and Employee Health, *Journal of Management*, 17, 235-271.
- Gautier, A. (1996). *The State and The Family: A Comparative Analysis of Family Policies in Industrialized Countries*, Oxford University Press: London.
- Gionfriddo, J. and Dhingra, L. (1999) Retaining High Tech Talent, *Compensation and Benefits Review*, Sept/Oct.), 31-35.
- Higgins, C., Duxbury, L. & Lee, C. (1992). *Balancing Work and Family: A Study of the Canadian Private Sector*, National Centre for Research, Management and Development, London, Ontario.
- Higgins, C., Duxbury, L. & Lee, C. (1994). Impact of Life-cycle Stage and Gender on the Ability to Balance Work and Family Responsibilities, *Family Relations*, 43, 144-150.
- Higgins, C.A. and Duxbury, L.E. (1999). Managing for Success, Being a Supportive Leader. pp. 266-271. Monica Fleck (ed.), Harper Collins Publishers Ltd., Toronto, Canada.
- Hochsfield, A. (1989), *The Second Shift*, Viking Penguin: New York.
- Hochsfield, A. (1997), *The Time Bind: When Work Becomes Home and Home Becomes Work*, Holt: New York.
- Jick, T., & Mitz, L. (1985). Sex differences in work stress. *Academy of Management Review*, 10, 408-420.
- Johnson, L. (1997). *Changing Families, Changing Workplaces: Case Studies of Policies and Programs in Canadian Workplaces*, HRDC: Ottawa, Cat. L38-51/1994E.
- Johnson, K., Duxbury, L. & Higgins, C. (1997). *Making Work and Lifestyle Initiatives Work: Beyond Best Practices*, prepared for Industry Canada, Ottawa, Ont.
- Johnston, W. and Packer, A. (1987). *Workforce 2000: Work and workers for the 21<sup>st</sup> century*. Indianapolis: Hudson Institute.
- Kanter, R.M. (1979), *Men and Women of the Corporation*, Sage: New York.
- Kamerman, S. and Kahn, A. (1987). *The responsive workplace. Employers and a changing labor force*. New York: Columbia University Press.
- Karasek, R., Gardell, B., & Lindell, J. (1987). Work and non-work correlates of illness and behaviour in male and female Swedish white collar workers. *Journal of Occupational Behaviour*, 8, 187-207.
- Karasek, R. (1979). Job demands, job decision latitude, and mental strain: Implications for job redesign. *Administrative Science Quarterly*, 29, 285-308.
- Kingston, P. (1990). Illusions and ignorance about the family-responsive workplace. *Journal of Family Issues*, 11, 4, 438-454.
- Lamert, S. (1990). Processes Linking Work and Family: A Critical Review and Research Agenda, *Human Relations*, 32, 239.
- Leiter M. and Durup, M., (1996). Work, Home and In-Between: A Longitudinal Study of Spillover, *The Journal of Applied Behavioural Science*, 32, 29-47.

- Lero, D., Brockman, L., Pence, A., Goelman, H. and Johnson, K. (1993). *Workplace benefits and flexibility: A perspective on parents' experiences*. Ottawa: Statistics Canada. Catalogue 89-530E.
- Lord, M. and King, M. (1991). The state reference guide to work-family programs for state employees. New York: Families & Work Institute.
- Lero, D. and Johnson, K. (1994). *110 Canadian statistics on work and family*. Ottawa: Canadian Advisory Council on the Status of Women.
- Lowe, G. (2000) *The Quality of Work: A People Centred Agenda*, Oxford University Press: Toronto.
- Lowe, G. and Schellenberg, G. (1999). *Changing Employment Relationships: Implications for Workers, Employers and Public Policy*, CPRN, Ottawa.
- Mathews, L., Conger, R. and Wickrama, K., (1996). Work-family conflict and marital quality: Mediating processes, *Social Psychology Quarterly*, 59, 62-79.
- MacBride-King, J. (1990). *Work and family: Employment challenge of the '90s*. Ottawa: Conference Board of Canada.
- National Forum on Health (1996). *Maintaining a national health care system: A question of principles... and money*. Ottawa: National Forum on Health.
- O'Neil, R. & Greenberger, E. (1994). Patterns of commitment to work and parenting: Implications of role strain, *Journal of Marriage and the Family*, 56, 101-112.
- Paris, H. (1989). *The corporate response to workers with family responsibilities*. Ottawa: Conference Board of Canada.
- Quick, J., Nelson, D., & Hurrell, J. Jr. (1997). *Preventive stress management in organizations*. Washington, D.C.: American Psychological Association.
- Rashid, A., (1998). Family Income Inequality: 1970-1995, *Perspectives on Labour and Income*, 10, 1.
- Report of the Advisory Group on Working Time and the Distribution of Work, (1994) *Report of the Advisory Group on Working Time and the Distribution of Work*, Supply and Services Canada: Ottawa, Catalogue Number LT-O11-12-94
- Schellenberg, G. and Ross, D., (1997). Left Poor by the Market: A Look at Family Poverty and Earnings, *Social Research Series No. 2*, Canadian Council on Social Development: Ottawa
- Schlussel, Y. James, G. and Pickering, T., (1992). *Gender Differences in the Effects of Occupational and Domestic Roles on Cardiovascular Risks*, American Sociological Association: New York.
- Schwartz, F. (1992). Women as a business imperative. *Harvard Business Review*, March-April, 105-113.
- Katherine Scott, (2000) *Work Family and Community: Key Issues and Directions for Future Research*, Labour Bureau, HRDC, Ottawa. (Also see <http://labour.hrdc-drhc.gc.ca/doc/wlb-ctp/ccsd-ccds/c1-en.html>)
- Status of Women, (1995). *Setting the Stage for the Next Century: The Federal Plan for Gender Equality*, Status of Women: Ottawa.
- Skrypnek, B. and Fast, J. (1996), Work and Family Policy in Canada: Family Needs, Collective Solutions, *Journal of Family Issues*, 17, 793-812.
- Statistics Canada (1993). Historical Labour Force Statistics, Statistics Canada: Ottawa, Catalogue no. 71-201.
- Statistics Canada (1997a), CANSIM, Matrix 6367.
- Statistics Canada (1997b). *Historical labour force statistics*. Ottawa: Statistics Canada, Catalogue 71-201.
- Statistics Canada (1997c). *Labour force annual averages*. Ottawa: Statistics Canada, Catalogue 71-529.
- Statistics Canada (1997d). *Characteristics of dual-earner families*. Ottawa: Statistics Canada, Catalogue 13-215-XPB.
- Statistics Canada (1997e). *1996 Census: Marital status, common-law unions and families*. The Daily, Tuesday, October 14.
- Statistics Canada (1997f). *Labour force update: Hours of work*. Ottawa: Statistics Canada, Catalogue 71-005-XPB.
- Statistics Canada, (1998), Labour Force Historical Review (microdata file), Statistic Canada: Ottawa.
- Statistic Canada, (June 1998). Family Income After Tax, 1996. *The Daily*, June 22, Statistic Canada: Ottawa
- Statistics Canada, (October, 1998), Earning Characteristics of Two-Partner Families, *The Daily*, October 23, Statistic Canada: Ottawa
- Statistics Canada (1999). *National Population Health Survey, 1996-97, 2<sup>nd</sup> Cycle*.
- Statistics Canada, (January, 1999) Labour Force Update: An Overview of the Labour Market 1998, *The Daily*, January 27, Statistic Canada: Ottawa
- Statistics Canada, (2000). *Women in Canada 2000: A Gender Based Statistical Report*, Statistics Canada: Ottawa, Catalogue no. 89-503-XPE.
- Stone, T. and Meltz, N. (1993). *Human Resource Management in Canada*, Dryden Press: Toronto.
- Thomas, L. & Ganster, D. (1995). Impact of family-supportive work variables on work-family conflict and strain: A control perspective. *Journal of Applied Psychology*, 80, 6-15.
- Towers Perrin & Hudson Institute (1991). *Workforce 2000. Competing in a seller's market: Is Canadian management prepared?*
- UT-Houston Work/Life (2001). *Work-Family Task Force Report*, <http://www.uth.tmc.edu/family/wftfcost.html>



Vanier Institute, (1997). *From the Kitchen Table to the Boardroom Table: The Canadian Family and the Workplace*, Vanier Institute of the Family: Ottawa.

Vanderkolk, B. and Young, A. (1991). *The work and family revolution: How companies can keep employees happy and business profitable*. New York: Facts on File, Inc.

Vanier Institute (1994) *Profiling Canada's Families I*, Vanier Institute of the Family, Ottawa.

Vanier Institute (2000) *Profiling Canada's Families II*, Vanier Institute of the Family, Ottawa.

Yukon Declaration on Economic Equality of Women. (1992), *Yukon Declaration on Economic Equality of Women*, Supply and Services Canada: Ottawa.

(Linda Duxbury School of Business, Carleton University)

(Chris Higgins Richard Ivey School of Business, University of Western Ontario)

(こばやし・のぶひこ  
国立社会保障・人口問題研究所客員研究員)

(かねこ・よしひろ  
国立社会保障・人口問題研究所  
社会保障応用分析研究部第一室長)